



多くの来賓が臨席される中、全国からの参加者に歓迎の言葉を述べる県視障協鈴木会長

「全国盲人福祉大会」湘南の地で開催される

去る五月十七日、「第五十六回全国盲人福祉大会神奈川大会」が小田原市で開催されました。

視覚障害者の自立と社会参加の機会を拡大し、健常者と障害者とともに生きる福祉社会の実現と、視覚障害者福祉の推進を図ることを目的とした本大会。大会前二日間に渡り、大磯町で行われた役員会、代表者会議等への参加も含め、全国から約二千人の視覚に障害のある方々や関係者が集いました。式典では、主催者で本県大会実行委員会の、神奈川県視覚障害者福祉協会・鈴木孝幸会長より、「支援費制度の実施等、障害者福祉が変革しつつある中、創立五十五周年という節目の年を迎える本協会

が中心となり、本県で大会を開催できるということに大変意義深いものと感じている。参加者、そして大会を支えてくださった関係団体・ボランティアの皆様から感謝するとともに、この大会が、県内はもちろん全国の福祉向上の一助となることを祈念したい」との歓迎の言葉が述べられました。

同じく主催者の日本盲人会連合・笹川吉彦会長からは、「本大会を二十一世紀の障害福祉の推進に向けた第一歩として、力強く前進していきたい」との挨拶がありました。また、松沢成文神奈川県知事や小澤良明小田原市長等、多くの来賓の方々からも歓迎のご挨拶がありました。

大会議事では、昨年度活動報告と本年度運動方針が確認されるとともに、就労確保に向け、法的に位置付けられてない資格名称を用いた鍼灸師養成施設新増設の阻止や機能訓練指導員、ヘルスキーパー等の優先採用、支援費制度の早期改善、環境及び情報バリアフリーの推進等の要望が盛り込まれた決議並びに宣言が、満場の拍手で採択されました。

◆(編)日本盲人会連合
03 | 3 2 0 0 | 0 0 1 1

読者の声

一滴のくやし涙

君なんか生まれてこないほうが、よかつたんだと、何度いわれたらどうか。偏見と差別という心の濁った目に、射すくみいたたまれずにいる僕。きつとその人は、本当は言いたくないのに、仲間が集まると言ってしまう、弱い人間なんだ。

自分のしたことが、どんなに僕を傷つけたか、いつか分かってくれる。そう信じよう。僕だって弱い人間なんだから。一滴のくやし涙は、僕に本当の「勇気」とは何かを教えてくれた。

ものごころが分かる頃、私は「ツンボ! ツンボ!」とからかわれる「片端者」の身であることを知らされました。

ある時、叔母が教会に連れていってくれました。そこで、私と同じ悲しみにひしがれ十字架を背負って

歩むイエスを見ました。その姿に、私自身の姿を重ね、何ごとにも他人に負けたくないという野心を持ちました。しかし、今、ようやく私自身の「傲慢」さに気づかされました。

障害のある人を、人はかわいそうだと言います。でも人間は、誰しも弱さを持っています。強いから助けるのではなく、お互いに弱さを持っているからこそ、扶け合っているからこそ、扶け合っています。その人の「障害」のみを見るのではなく、「人間」全体を見ることが大切なんだと学ばされました。その人の苦しみを、自分のものにしてこそ扶け得るのです。そのためには私達自身が、重い苦しい悲しみを味わう、共に心から分かちあう人間関係を積み重ねてこそ、はじめてでき得るのではないのでしょうか。

(大石忠)

▶投稿をお寄せください◀

「福祉について思うこと」をテーマにした投稿をお待ちしています。他のテーマや本紙内容へのご意見ご感想でも結構です。分量は700字程度。匿名でも結構です。



郵送：〒221-0844
横浜市神奈川区沢渡4-2
FAX：045-312-6302
Mail：kikaku@jinsyakyo.or.jp
いずれも「県社協企画課タイムズ係」と明記のこと